

＜ もくじ ＞	
1. 2025年 年頭の辞	1
2. 第9回研究会合同イベントのお知らせ	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 各研究会の概要報告	3
5. 事務局からのお知らせとお願い	4

1. 2025年 年頭の辞

明けましておめでとうございます。皆様は新しい年をどのようにお迎えになりましたか。

今年シニア社会学会設立 25 周年の記念すべき年にあたります。6 月 7 日(土)に開催される大会では、初心に立ち返って、高齢者の社会参加をテーマに取り上げることいたします。シニア社会学会が構想されたのは、20 世紀も終わりの頃。高齢化が進み労働力人口が減少することで経済活動が停滞し、年金・医療・介護サービスを受ける人が社会保険料を支払う人を上回る結果、現役世代が将来に希望を持てなくなることへの危機感が高まっていました。そうした趨勢に対して、高齢者は社会的サービスの受け手ではなく、支え手になることで社会の活性化を図ることが狙いでした。



21 世紀に入ってリーマンショックを機に日本経済は停滞を続け、失われた 30 年を迎えることになりました。「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われた国が、30 年間でここまで落ちぶれてしまうことを誰が想像したでしょうか。非正規雇用が増大し、大学を卒業してもフリーターに留まる若者が増えています。

昨年 10 月の衆議院選で、所得税を払わなくて済む 103 万円の「年収の壁」を 178 万円まで引き上げることをアピールして国民民主党が若者の票を集めました。そもそも 103 万円の年収の壁は、主婦のパート労働者の就業調整として機能することが憂慮されてきたものです。しかし今やアルバイト学生の壁として立ちどころになりました。学生の本分は勉強なので、103 万円を超えてまで働かざるを得ない学生が少なくないということ自体がまともとは思われません。

若者におもねるかのように、高齢者バッシングをする学者や政党が現れました。若手の経済学者が、高齢者は集団自決すべきと発言して物議をかもしたことがあります。高齢者は安楽死を考えてもいいのではと恐ろしいことを口にする政治家もいます。倍賞千恵子が主演する映画「PLAN75」には、75 歳を過ぎたら自ら進んで安楽死を選択するという近未来の日本のディストピアが描かれていました。

近年、高齢者に対する医療・介護サービスを縮減し、保険料負担を増やそうという動きが目立ちます。若者たちの置かれている窮状を考えると高齢者もある程度の負担に耐える必要がありそうです。しかし高齢者の取り分を減らして若者に回すのではなく、パイ全体を大きくすべきでしょう。そのため、高齢者も可能なかぎり身体的・経済的に自立し、社会に貢献することを心掛けたいものです。

2025年1月吉日

一般社団法人シニア社会学会
会長 袖井孝子

2. 第9回研究会合同イベント（シンポジウム形式）開催案内

本年度の最後のイベントは例年3月に行われる研究会合同イベントです。今年は、社会保障研究会主催で「認知症ケア」の問題を扱います。認知症の原因はかならずしも一つではなく、その症状に陥る原因も機会もさまざまです。しかし現代社会では少子高齢化が進行し、老々介護が当たり前のようになりました。しかも多くの高齢者が社会とのつながりが希薄化し孤立化していくなかで、自らの社会の中での役割を見失いがちです。

その状況を背景に、認知症ケアにも現在の時代にあった手法が実践されつつあり、「ナラティブアプローチ」もその一つです。そこで今回は社会学およびジェロントロジーの研究者であり、本テーマに関する著書もある荒井浩道さんに基調講演をお願いし、具体的な実践者であるお二人の方にパネリストとしてお話をいただく予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

■ 開催日時：2025年3月22日（土） 14:00～16:00

■ 開催主体：社会保障研究会

■ 開催場所：ちよだプラットフォーム402会議室

■ プログラム

司会：袖井孝子（当学会会長）

1. 基調講演：「ものがたりとしての認知症ケア～ナラティブ・アプローチ～」

講演者：荒井浩道（当学会理事、駒澤大学教授）

2. パネルディスカッション

パネリスト：下村達郎（香念寺住職）※寺院での介護者カフェ運営

上野美知子（Co もれび主宰）※ケアラー支援として都会で森林浴

コメンテーター：荒井浩道

※ お申し込みは、JAAS News 配信メールでご案内のチラシ（ダウンロード URL を記載しております）に掲載いたします。

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第103回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2025年1月23日（木） 15:00～18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：「我がマンションのコミュニティづくり—自治会有志の活動で知る無関心居住者の多さ・つながりづくりの難しさ」

発表者：本田 恭助

4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

(2) 第52回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2025年1月25日（土） 18:30～20:30

2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者：YNS やまぶき任意後見、アワーズ、学会員

4) テーマ：1月24日イベントの反省

寸劇の新たな視点

びしょうざ
劇団 「B笑座」

認知症を可視化し、できるだけわかりやすくします。人形劇、寸劇など劇団員募集しています。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄（mme_masumi@yahoo.co.jp）迄お願い致します。

(3) 第167回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年1月29日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：吉田 学(社会福祉法人日本保育協会・理事長)
- 3) テーマ：「地域包括ケアから地域共生へ〜2025年を迎えて〜」
- 4) オンラインで開催いたします。

※ 参加を希望される方は、阿部 (fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) にご連絡ください。
資料をお送りいたします。

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで
090-4436-6853

(4) 第58回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2025年1月31日(金) 17:30~19:30 Zoom開催
- 2) テーマ：食の安全—生産者・市場・消費者
- 3) 報告者：栗野牧子 (岩手県北上市在住 農業従事者 研究会メンバー)

※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。

(5) 第56回「社会情報」研究会開催のお知らせ(再掲)

- 1) 日 時：2025年2月5日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 報告者：安田育生
- 4) 概 要：ICT 利活用に関すること

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第102回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年12月19日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：『金子みすゞ』の詩歌に、コミュニティを思う

発表者：島村 健次郎

島村さんは、金子みすゞの詩歌を取り上げた理由として2点上げた。1点は10数年前、長門市の「金子みすゞ記念館」を訪れていること。2点目は、『コミュニティ学のスズメ』誌の中で、濱口先生は「コミュニティ文学」という分野を唱えられ、『赤毛のアン』をその代表作として紹介されていること。そして金子みすゞの詩歌も、コミュニティ文学ではないかと考えたこと。詩歌は『金子みすゞ詩集』(角川春樹事務所刊)に掲載の72作品からコミュニティを思い起させる21作品をピックアップして、濱口先生のコミュニティに関するキーワードと結びつけることにより解説した。濱口先生は、「コミュニティは人生 人生劇場の舞台である」と言われる。金子みすゞの詩歌は、正に彼女の「人生劇場の舞台」そのものであると思うこと。結びとして、「金子みすゞの詩歌には コミュニティの愛がある みんなちがってみんないい」と閉めた。

濱口座長はコメントとして、コミュニティという言葉が共同体という言葉に代わり使われ始めた1970年代頃、時代の推移とともに、共同体という人間結合の実態はその存在感を消失し、人間関係を選択できる場合が多くなっていく。ではこの結合形態は時代の推移とともに無くなってしまふのだろうかという、無くなることはないだろう。ではなぜだろうか。人間関係はいかにその代替機能の形式が新規化され、その形式がさらに新規化され別の新規化された人間関係に置き換えられようと、人という社会的生物は強弱濃淡のある人間結合を必要とするからであると述べられた。

(島村健次郎 記)

(2) 第57回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年12月20日（金） 17：30～19：30 Zoom 開催
- 2) 報告者：山本恵子（社会保険労務士 研究会メンバー）
- 3) タイトル：年金のお話

2024年は年金の財政検証の年、2025年は年金改正の年、ということから、年金の給付水準がどうなるか、ややこしい遺族年金の仕組みとその改正案をお話し、「年収の壁」まで入れたのは、税金も社会保障も働き方とつながっていると言いかったからだ。

女性を守る仕組みに見える年金や税金が、実は女性の就労意欲を抑制している制度になっている。いまだに都合よく男を働かせ、家事・育児を女に任せるシステムの温存につながっているのではないか。年金の第3号被保険者制度、健康保険の被扶養者制度、税金の配偶者(特別)控除という特典を失いたくないという目先の得から働き方を考えている。

介護分野では2000年に介護保険ができて、介護の社会化が進んできた、仕事と介護の両立支援は制度自体を知らないこともあり、来年からは企業に制度の周知義務が課される。とはいえ年間10万人近い介護による離職者の8割は女性である。

育児では男性の育児休業が進まない、また、女性も家事が大変だから長くは働きづらいという。家事は一人暮らしでも担っている。家事の分担は性差なく担うものでありたい。追記として、言い足りなかった第3号被保険者の歴史について詳細に解説した。(省略)

自身の経験であるが、結婚後も仕事を続ける予定が夫の転勤で挫折し、下の子どもが3歳までのワンオペ育児でやっと保育園に入った。その後の就活中に横浜市の男女平等推進の論文募集に応募し、イギリス・デンマークの女性の現状視察の機会を得た。デンマークでの自己紹介で、デンマークには専業主婦という用語がないと言われ、「どこか身体が悪いのか」と聞かれた。健康であれば働いて社会参加するのが当然、これが私の指針となった。(山本恵子 記)

(3) 第51回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2024年12月21日（土） 18：30～20：30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）
- 4) テーマ：認知症とともに生きる (鈴木眞澄 記)

5. 事務局からのお知らせとお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2025年2月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第306号の発行日は、2025年2月19日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、2月14日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/